

問 12 あなたは、女の子と男の子のしつけや教育についてどう思いますか。次の中から選んでください。（〇は1つ）【n=833】

女の子と男の子のしつけや教育については、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」が71.9%で最も高く、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい」が20.8%、「その他」が4.7%で続いています。

前回調査と比較すると、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」と考える人が4.2ポイント増加しており、子どもの教育において性別に関係なく平等な対応をするべきだと考える人が増えていることがわかります。

性別にみると、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」と考える割合は、女性の方が14.7ポイント高く、性別による違いをつけずに教育するべきだと考える人が多くなっています。一方、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい」と考える割合は、男性の方が13.9ポイント高く、女性よりも性別による教育の違いを支持する傾向があります。

	2024	2019
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい	20.8%	26.0%
女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	71.9%	67.7%
その他	4.7%	4.5%
無回答	2.6%	1.8%

性別

	男性	女性	その他
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい	28.8%	14.9%	0.0%
女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	63.7%	78.4%	100.0%
その他	4.7%	4.5%	0.0%
無回答	2.8%	2.2%	0.0%

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】

年齢別にみると、「女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」と考える割合は、全体的に高い割合を占めており、どの年代でも過半数が支持しています。特に、18～29 歳では 9 割近くが性別の区別なしを支持しています。一方、30 代の 26.6% が「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に応じたしつけや教育をする方がよい」を支持しており、他の年代と比べて最も高くなっています。

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に 応じたしつけや教育をする方がよい	3.4%	26.6%	19.8%	21.2%	20.4%	23.5%
女の子も男の子も性による区別 はせず、同じようにしつけや 教育をする方がよい	88.1%	60.8%	68.9%	72.3%	75.6%	69.7%
その他	5.1%	7.6%	9.4%	4.4%	2.5%	3.6%
無回答	3.4%	5.1%	1.9%	2.2%	1.5%	3.2%

18～29 歳【n=59】、30～39 歳【n=79】、40～49 歳【n=106】、50～59 歳【n=137】、60～69 歳【n=201】、70 歳以上【n=251】

性・年齢別にみると、18～29 歳では、男女ともに約 9 割が「女の子も男の子も性による区別
はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい」を支持しています。また、30 代と 50 代以
降の女性で、男性より高い傾向があります。一方、「男女の役割を考え、女の子と男の子を性によ
って区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい」と考える割合は、30 代
の男性（45.2%）と 50 代の男性（39.6%）が高くなっています。女性はどの年代でも比較的低
く、特に 18～29 歳では 3.0%と極めて低くなっています。

性・年齢別

	男性					
	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい	4.0%	45.2%	18.6%	39.6%	28.4%	28.9%
女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	88.0%	38.7%	72.1%	54.7%	68.2%	62.8%
その他	8.0%	9.7%	7.0%	1.9%	1.1%	5.8%
無回答	0.0%	6.5%	2.3%	3.8%	2.3%	2.5%

	女性					
	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい	3.0%	14.6%	21.3%	9.6%	14.3%	18.9%
女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	87.9%	75.0%	68.9%	83.1%	81.3%	76.4%
その他	3.0%	6.3%	9.8%	6.0%	3.6%	1.6%
無回答	6.1%	4.2%	0.0%	1.2%	0.9%	3.1%

	その他
	18～29歳
男女の役割を考え、女の子と男の子を性によって区別して、それぞれの性に合ったしつけや教育をする方がよい	0.0%
女の子も男の子も性による区別はせず、同じようにしつけや教育をする方がよい	 100.0%
その他	0.0%
無回答	0.0%

男 性：18～29 歳【n=25】、30～39 歳【n=31】、40～49 歳【n=43】、50～59 歳【n=53】、60～69 歳【n=88】、70 歳以上【n=121】

女 性：18～29 歳【n=33】、30～39 歳【n=48】、40～49 歳【n=61】、50～59 歳【n=83】、60～69 歳【n=112】、70 歳以上【n=127】

その他：18～29 歳【n=1】

問 13 あなたは将来、主に誰に介護をしてほしいと思いますか。次の中から選んでください。
(○は1つ)【n=833】

将来、主に誰に介護をしてほしいと思うかについては、「介護施設、老人ホームなどに入所したい」が43.1%で最も高く、「妻」が15.1%、「ホームヘルパーなど」が13.1%が続いています。

前回調査と比較すると、「介護施設・老人ホームなどに入所したい」と考える人が6.5ポイント増加しました。一方、「妻」は4.5ポイント減少、「夫」は1.2ポイント減少するなど、夫婦間での介護を前提とする考えが減少しました。また、「ホームヘルパーなど」は3.0ポイント増加し、家族だけで介護を担うのではなく、専門家の支援を受けたいと考える人が増えていることが伺えます。さらに、「娘」は3.6ポイント減少、「息子」「子どもたち全員」はそれぞれ0.5ポイント減少するなど、子どもに介護を任せる考え方が薄れつつあります。特に、娘に介護を期待する意識の減少が顕著となっています。

	2024	2019
夫	6.5%	7.7%
妻	15.1%	19.6%
息子	1.0%	1.5%
娘	6.1%	9.7%
子どもたち全員	5.0%	5.5%
息子の妻	0.7%	0.5%
娘の夫	0.0%	0.1%
ホームヘルパーなど	13.1%	10.1%
介護施設、老人ホームなどに入所したい	43.1%	36.6%
その他	5.9%	5.7%
無回答	3.5%	3.0%

性別にみると、「介護施設・老人ホームなどに入所したい」と考える割合は、女性の方が 15.4 ポイント高くなっています。一方、「妻」に介護をしてほしいと考える男性が 34.1%と、圧倒的に多くなっています。

性別

	男性	女性	その他
夫	0.0%	11.6%	0.0%
妻	34.1%	0.2%	0.0%
息子	0.8%	1.1%	0.0%
娘	3.6%	8.0%	0.0%
子どもたち全員	5.5%	4.7%	0.0%
息子の妻	0.0%	1.3%	0.0%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%
ホームヘルパーなど	11.6%	14.0%	0.0%
介護施設、老人ホームなどに入所したい	34.6%	50.0%	100.0%
その他	6.6%	5.2%	0.0%
無回答	3.0%	3.9%	0.0%

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】

年齢別にみると、全年代で「介護施設・老人ホームなどに入所したい」と考える人が最も多くなっています。特に、30代と50～60代で45～50%と顕著に高くなっています。「妻」に介護を期待する人の割合は、高齢層ほど増加し、特に、70代では24.3%と高くなっています。「ホームヘルパーなど」は30代で17.7%、40代で18.9%と他の年齢に比べて高くなっています。また、「子どもたち全員」に介護を期待する人は若年層では比較的高くなっています。

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
夫	1.7%	5.1%	8.5%	8.0%	6.0%	6.8%
妻	8.5%	3.8%	11.3%	11.7%	14.4%	24.3%
息子	1.7%	0.0%	0.9%	0.0%	1.0%	1.6%
娘	5.1%	7.6%	1.9%	5.8%	8.0%	6.4%
子どもたち全員	11.9%	8.9%	9.4%	4.4%	3.0%	2.4%
息子の妻	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ホームヘルパーなど	8.5%	17.7%	18.9%	14.6%	11.4%	10.8%
介護施設、老人ホームなどに入所したい	37.3%	46.8%	36.8%	44.5%	49.3%	40.2%
その他	16.9%	6.3%	9.4%	7.3%	5.0%	1.6%
無回答	6.8%	3.8%	2.8%	3.6%	2.0%	4.0%

18～29歳【n=59】、30～39歳【n=79】、40～49歳【n=106】、50～59歳【n=137】、60～69歳【n=201】、70歳以上【n=251】

問 14 あなたの家族（同居・別居に関わらず）で、常時介護の必要な方はいますか。（○は1つ）
【n=833】

常時介護の必要な方がいるかどうかについては、「いいえ」が 80.4%を占めており、「はい（介護が必要な家族がいる）」は 17.9%となっています。

前回調査と比較すると、介護が必要な家族の割合にほぼ変化はみられません。

性別にみると、女性の方が「はい（介護が必要な家族がいる）」が男性を 4.3 ポイント上回っています。

年齢別にみると、50～60 歳以上で「はい（介護が必要な家族がいる）」の割合が高く、30 代が最も低くなっています。

家族構成別にみると、「はい（介護が必要な家族がいる）」の割合が高いのは、3 世代世帯（25.7%）とその他（27.3%）となっています。

	2024	2019
はい	17.9%	18.3%
いいえ	80.4%	80.2%
無回答	1.7%	1.4%

性別

	男性	女性	その他
はい	15.5%	19.8%	100.0%
いいえ	82.3%	78.9%	0.0%
無回答	2.2%	1.3%	0.0%

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
はい	13.6%	8.9%	14.2%	21.9%	27.4%	13.5%
いいえ	86.4%	86.1%	84.9%	75.9%	71.6%	84.9%
無回答	0.0%	5.1%	0.9%	2.2%	1.0%	1.6%

18～29 歳【n=59】、30～39 歳【n=79】、40～49 歳【n=106】、50～59 歳【n=137】、60～69 歳【n=201】、70 歳以上【n=251】

家族構成別

	単身世帯	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	その他
はい	8.7%	17.4%	17.6%	25.7%	27.3%
いいえ	89.1%	81.4%	81.0%	70.8%	72.7%
無回答	2.2%	1.2%	1.4%	3.5%	0.0%

単身世帯【n=92】、1 世代世帯【n=242】、2 世代世帯【n=363】、3 世代世帯【n=113】、その他【n=22】

問 15 問 14 で「はい」に○印をつけた方におたずねします。

その方の世話は、要介護者から見て主に誰がしていますか。次の中から選んでください。
(○は1つ)【n=149】

要介護者から見て主に誰が世話をしているかについては、「介護施設、老人ホームなどに入所している」が 32.9%で最も高く、「妻」が 20.8%、「娘」が 10.7%が続いています。

前回調査と比較すると、「介護施設・老人ホームなどに入所している」が 4.2 ポイント増加しています。しかし、「妻」が世話をしている割合も 2.2 ポイント増加しており、配偶者介護（特に「妻が世話をする」）が依然として多い状況です。一方、「娘」が世話をしている割合は 3.7 ポイント、「息子の妻」が世話をしている割合は 3.3 ポイント、それぞれ減少しています。

	2024	2019
夫	8.1%	9.0%
妻	20.8%	18.6%
息子	6.0%	4.2%
娘	10.7%	14.4%
子どもたち全員	0.0%	1.2%
息子の妻	8.1%	11.4%
娘の夫	0.0%	0.0%
ホームヘルパーなど	3.4%	3.0%
介護施設、老人ホームなどに入所している	32.9%	28.7%
その他	8.1%	8.4%
無回答	2.0%	1.2%

性別にみると、「介護施設、老人ホームなどに入所している」割合は男女でほぼ同じとなっています。男性は「妻」に世話をしてもらっている割合が 25.0%と高く、女性は「娘」に世話をしてもらっている割合が 14.1%と男性を 8.7 ポイント上回り高くなっています。

性別

	男性	女性	その他
夫	7.1%	8.7%	0.0%
妻	25.0%	18.5%	0.0%
息子	8.9%	4.3%	0.0%
娘	5.4%	14.1%	0.0%
子どもたち全員	0.0%	0.0%	0.0%
息子の妻	5.4%	9.8%	0.0%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%
ホームヘルパーなど	3.6%	2.2%	100.0%
介護施設、老人ホームなどに入所している	32.1%	33.7%	0.0%
その他	7.1%	8.7%	0.0%
無回答	5.4%	0.0%	0.0%

男性【n=56】、女性【n=92】、その他【n=1】

家族構成別にみると、単身世帯、1 世代世帯、その他では「介護施設・老人ホームに入所している」と回答した割合が 50.0%と高くなっています。3 世代世帯では施設入所率が最も低く（6.9%）、要介護者の配偶者である妻が世話をするケース（31.0%）が最も多くなっています。また、1 世代世帯や 2 世代世帯でも、妻が介護をする割合は比較的高くなっています。さらに、3 世代世帯では「夫」が要介護者の世話をするケース（20.7%）も一定数ありますが、1 世代、2 世代世帯では夫が介護をする割合が低く、妻が担う割合が高くなっています。娘による介護は 2 世代世帯（14.1%）で最も多く、親と同居している子ども（特に娘）が介護を担うケースがみられます。「息子の妻」が介護をしている割合は 3 世代世帯が 13.8%と最も高くなっています。

家族構成別

	単身世帯	1 世代世帯	2 世代世帯	3 世代世帯	その他
夫	12.5%	2.4%	4.7%	20.7%	16.7%
妻	12.5%	19.0%	20.3%	31.0%	0.0%
息子	0.0%	9.5%	7.8%	0.0%	0.0%
娘	12.5%	9.5%	14.1%	6.9%	0.0%
子どもたち全員	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
息子の妻	0.0%	4.8%	9.4%	13.8%	0.0%
娘の夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ホームヘルパーなど	0.0%	4.8%	3.1%	3.4%	0.0%
介護施設、老人ホームなどに入所している	50.0%	50.0%	29.7%	6.9%	50.0%
その他	12.5%	0.0%	7.8%	13.8%	33.3%
無回答	0.0%	0.0%	3.1%	3.4%	0.0%

単身世帯【n=8】、1 世代世帯【n=42】、2 世代世帯【n=64】、3 世代世帯【n=29】、その他【n=6】

4. 社会活動などについて

問 16 あなたは、次のような活動をしていますか。次の中から選んでください。
(○はいくつでも)【n=833】

社会活動などへの参加状況については、「いずれも参加していない」が 56.5%で最も高くなっています。参加している活動としては、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」が 22.8%、「生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動」が 14.5%で続いています。

前回調査と比較すると、「いずれの社会活動にも参加していない」割合が 4.6 ポイント増加しています。参加している活動をみると、「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽などのグループ活動」の参加率が 3.6 ポイント減少するなど、6 項目で減少しており、全体として社会活動への参加率は減少傾向にあります。

	2024	2019
自治会・住民自治協議会などの地域活動	 22.8%	 23.6%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	 14.5%	 18.1%
民生委員やボランティアなどの社会活動	 6.8%	 6.9%
P T A ・子ども会などの青少年育成活動	 6.2%	 6.9%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	 6.0%	 7.8%
県・市の審議会・委員会の委員	 2.2%	 1.5%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	 0.8%	 1.1%
その他の社会活動など	 4.1%	 3.8%
いずれも参加していない	 56.5%	 51.9%
無回答	 1.2%	 1.0%

性別にみると、「いずれの社会活動にも参加していない」割合は女性の方が 12.9 ポイント高くなっています。参加している活動をみると、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」への参加率は男性が 33.0%と圧倒的に高く、女性を 17.9 ポイント上回っています。また、「青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動」「その他の社会活動など」は男性の方がそれぞれ 4.5 ポイント、4.4 ポイント高く、「PTA・子ども会などの青少年育成活動」「民生委員やボランティアなどの社会活動」は女性の方がそれぞれ 3.8 ポイント、2.5 ポイント高くなっています。

性別

	男性	女性	その他
自治会・住民自治協議会などの地域活動	33.0%	15.1%	0.0%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	15.0%	14.4%	0.0%
民生委員やボランティアなどの社会活動	5.5%	8.0%	0.0%
PTA・子ども会などの青少年育成活動	4.2%	8.0%	0.0%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	8.6%	4.1%	0.0%
県・市の審議会・委員会の委員	2.8%	1.7%	0.0%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	0.8%	0.9%	0.0%
その他の社会活動など	6.6%	2.2%	0.0%
いずれも参加していない	49.0%	61.9%	100.0%
無回答	1.1%	1.3%	0.0%

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】

年齢別にみると、「いずれも参加していない」割合は、18～29 歳が 81.4%、30 代が 73.4%と、若年層（18～39 歳）の社会活動への参加率が低くなっています。40 代では一時的に参加率が上がりますが、50 代で再び減少し、リタイア後の高齢層（60 代・70 代）が最も積極的に社会活動に関与していると言えます。

参加している活動をみると、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」への参加率は 60 代が 32.8%と最も高くなっています。「生涯学習活動・スポーツ活動・趣味や娯楽のグループ活動」は 70 代が 19.9%と最も高く、40 代以降で徐々に増えていく傾向にあります。「PTA・子ども会などの青少年育成活動」への参加率が最も高いのは子育て世代である 40 代の 23.6%となっています。

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
自治会・住民自治協議会などの地域活動	1.7%	8.9%	27.4%	20.4%	32.8%	23.5%
生涯学習活動、スポーツ活動、趣味や娯楽などのグループ活動	11.9%	7.6%	11.3%	13.9%	13.4%	19.9%
民生委員やボランティアなどの社会活動	6.8%	1.3%	4.7%	2.9%	5.5%	12.7%
PTA・子ども会などの青少年育成活動	0.0%	7.6%	23.6%	8.0%	2.0%	2.4%
青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動	0.0%	1.3%	5.7%	1.5%	8.5%	9.6%
県・市の審議会・委員会の委員	3.4%	2.5%	0.9%	0.7%	2.0%	3.2%
消費者団体・生活協同組合など消費者活動	1.7%	0.0%	2.8%	0.0%	1.0%	0.4%
その他の社会活動など	0.0%	5.1%	2.8%	2.2%	1.5%	8.4%
いずれも参加していない	81.4%	73.4%	52.8%	64.2%	49.3%	48.6%
無回答	0.0%	1.3%	0.9%	0.0%	1.0%	2.4%

18～29 歳【n=59】、30～39 歳【n=79】、40～49 歳【n=106】、50～59 歳【n=137】、60～69 歳【n=201】、70 歳以上【n=251】

就業状況別にみると、「いずれも参加していない」割合が高いのは学生（70.6%）、家事専業・家事手伝い（55.6%）、無職（50.6%）となっており、就業者（特に、農林水産業や商工・サービス業、自由業）は比較的社会活動に関わる割合が高くなっています。

参加している活動を見ると、「自治会・住民自治協議会などの地域活動」への参加率は商工・サービス業（32.4%）、「無職」（28.7%）、農林水産業（27.8%）などで高くなっています。「生涯学習・スポーツ・趣味のグループ活動」への参加率が高いのは、「その他」（25.0%）、学生（23.5%）、「無職」（20.7%）、家事専業・家事手伝い（19.4%）などとなっています。「青年団体・女性団体・高齢者団体などの活動」への参加率が最も高いのは農林水産業（22.2%）、自由業（22.2%）となっています。

就業状況別

	正規雇用者	非正規雇用者	派遣社員、 契約社員	農林水産業	商工・ サービス業
自治会・住民自治協議会などの 地域活動	19.7%	23.4%	25.0%	27.8%	32.4%
生涯学習活動、スポーツ活動、 趣味や娯楽などのグループ活動	12.1%	12.5%	6.3%	5.6%	13.5%
民生委員やボランティアなどの 社会活動	1.9%	8.3%	6.3%	5.6%	8.1%
PTA・子ども会などの 青少年育成活動	9.8%	7.3%	3.1%	0.0%	10.8%
青年団体・女性団体・ 高齢者団体などの活動	4.9%	2.1%	3.1%	22.2%	0.0%
県・市の審議会・委員会の委員	1.9%	2.6%	0.0%	5.6%	2.7%
消費者団体・生活協同組合など 消費者活動	1.1%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他の社会活動など	3.4%	2.6%	3.1%	11.1%	5.4%
いずれも参加していない	61.7%	59.9%	59.4%	33.3%	43.2%
無回答	0.0%	1.6%	0.0%	11.1%	0.0%

	自由業	学生	家事専業・ 家事手伝い	無職	その他
自治会・住民自治協議会などの 地域活動	■ 22.2%	0.0%	■ 19.4%	■ 28.7%	■ 16.7%
生涯学習活動、スポーツ活動、 趣味や娯楽などのグループ活動	0.0%	■ 23.5%	■ 19.4%	■ 20.7%	■ 25.0%
民生委員やボランティアなどの 社会活動	■ 22.2%	■ 11.8%	■ 6.9%	■ 10.9%	■ 16.7%
P T A・子ども会などの 青少年育成活動	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%
青年団体・女性団体・ 高齢者団体などの活動	■ 22.2%	0.0%	■ 9.7%	■ 10.3%	■ 8.3%
県・市の審議会・委員会の委員	0.0%	■ 5.9%	0.0%	2.9%	0.0%
消費者団体・生活協同組合など 消費者活動	0.0%	■ 5.9%	0.0%	0.6%	0.0%
その他の社会活動など	0.0%	0.0%	1.4%	■ 6.9%	■ 8.3%
いずれも参加していない	■ 44.4%	■ 70.6%	■ 55.6%	■ 50.6%	■ 41.7%
無回答	0.0%	0.0%	1.4%	1.1%	0.0%

正規雇用者【n=264】、非正規雇用者【n=192】、派遣社員、契約社員【n=32】、農林水産業【n=18】、
商工・サービス業【n=37】、自由業【n=9】、家事専業・家事手伝い【n=72】、学生【n=17】、無職【n=174】、
その他【n=12】

問 17 問 16 で「自治会・住民自治協議会などの地域活動」に○印をつけた方におたずねします。
その組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いていますか。(○は 1 つ)
【n=190】

組織内で、意思決定に関わる役職(会長・役員など)に就いているかどうかについては、「役職に就いていない」が 64.7%を占めており、「役職に就いている」は 33.2%となっています。

前回調査と比較すると、「役職に就いている」が 4.4 ポイント増加しました。

性別にみると、「役職に就いている」は男性が圧倒的に高く、女性を 25.8 ポイント上回っています。

	2024	2019
役職に就いている	 33.2%	 28.8%
役職に就いていない	 64.7%	 68.8%
無回答	 2.1%	 2.3%

性別

	男性	女性
役職に就いている	 42.9%	 17.1%
役職に就いていない	 56.3%	 78.6%
無回答	 0.8%	 4.3%

男性【n=119】、女性【n=70】

問 18 問 16 で「いずれも参加していない」に○印をつけた方におたずねします。
その理由は何ですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)【n=471】

社会活動に参加していない理由については、「興味がない」が 31.2%で最も高く、「仕事が忙しく余裕がない」が 29.3%、「どんな活動があるのかよくわからない」が 25.3%で続いています。
前回調査との比較については、「知識や能力の面で不安がある」の項目が 2024 年調査より新たに追加した項目のため、比較していません。

	2024	2019
興味がない	 31.2%	 25.6%
仕事が忙しく余裕がない	 29.3%	 32.6%
どんな活動があるのかよくわからない	 25.3%	 20.7%
参加するきっかけがつかめない	 24.4%	 21.8%
人間関係がわずらわしい	 17.2%	 15.4%
知識や能力の面で不安がある	 13.0%	
体が丈夫でない	 11.9%	 13.7%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	 10.2%	 8.5%
高齢者や病人の世話がある	 6.6%	 5.9%
活動に経費がかかる	 2.5%	 3.6%
家族の理解・協力がでない	 1.5%	 0.8%
その他	 10.2%	 9.7%
無回答	 1.3%	 2.1%

性別にみると、「興味がない」割合は男性が 36.7%と女性を 9.5 ポイント上回っており、男性の方が社会活動に対して関心が低い傾向があります。また、「人間関係がわずらわしい」(8.1 ポイント)、「どんな活動があるのかよくわからない」(6.4 ポイント)、「仕事が忙しく余裕がない」(3.7 ポイント)などでも女性を上回っています。一方、「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」は女性が 14.3%と、男性を 11.5 ポイント上回っています。さらに、「高齢者や病人の世話がある」割合も女性が男性を 7.1 ポイント上回っています。

性別

	男性	女性	その他
興味がない	36.7%	27.2%	100.0%
仕事が忙しく余裕がない	31.6%	27.9%	
どんな活動があるのかよくわからない	29.4%	23.0%	
参加するきっかけがつかめない	26.0%	23.7%	
人間関係がわずらわしい	22.0%	13.9%	
知識や能力の面で不安がある	11.3%	13.9%	
体が丈夫でない	13.6%	10.8%	
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	2.8%	14.3%	
高齢者や病人の世話がある	2.3%	9.4%	
活動に経費がかかる	1.1%	3.1%	
家族の理解・協力がでない	0.6%	2.1%	
その他	9.6%	10.8%	
無回答	0.6%	1.7%	

男性【n=177】、女性【n=287】、その他【n=1】

年齢別にみると、「興味がない」割合は若年層ほど高く、年齢が上がると低下する傾向にあります。「仕事が忙しく余裕がない」は40～60代では最も高く、「どんな活動があるのかよくわからない」は若年層（18～39歳）で最も高くなっています。また、50代では「参加するきっかけがつかめない」も高くなっています。「体が丈夫でない」は年齢が高くなるほど増加する傾向にあり、70歳以上では23.0%と最も高くなっています。「家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない」は30代が34.5%と他の年代に比べて高くなっています。

年齢別

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
興味がない	 43.8%	 37.9%	 35.7%	 34.1%	 30.3%	 19.7%
仕事が忙しく余裕がない	 33.3%	 37.9%	 41.1%	 35.2%	 32.3%	 11.5%
どんな活動があるのかよくわからない	 47.9%	 39.7%	 26.8%	 27.3%	 19.2%	 12.3%
参加するきっかけがつかめない	 35.4%	 20.7%	 23.2%	 35.2%	 20.2%	 18.0%
人間関係がわずらわしい	 8.3%	 22.4%	 19.6%	 18.2%	 18.2%	 15.6%
知識や能力の面で不安がある	 10.4%	 13.8%	 7.1%	 10.2%	 18.2%	 13.9%
体が丈夫でない	 6.3%	 6.9%	 3.6%	 3.4%	 16.2%	 23.0%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	 6.3%	 34.5%	 26.8%	 5.7%	 3.0%	 1.6%
高齢者や病人の世話がある		 1.7%		 8.0%	 13.1%	 8.2%
活動に経費がかかる	 4.2%	 5.2%		 3.4%	 3.0%	 0.8%
家族の理解・協力がでない				 1.1%	 4.0%	 1.6%
その他	 6.3%	 8.6%	 3.6%	 5.7%	 11.1%	 18.0%
無回答	 2.1%	 3.4%		 1.1%		 1.6%

18～29歳【n=48】、30～39歳【n=58】、40～49歳【n=56】、50～59歳【n=88】、60～69歳【n=99】、70歳以上【n=122】

就業状況別にみると、「興味がない」割合は学生と派遣社員・契約社員で40%以上と高くなっています。一方、家事専業・家事手伝いでは「興味がない」割合が20.0%と最も低くなっています。「仕事が忙しく余裕がない」は正規雇用者で47.9%、自由業で50.0%と最も高くなっています。

就業状況別

	正規雇用者	非正規雇用者	派遣社員、 契約社員	農林水産業	商工・ サービス業
興味がない	31.3%	39.1%	42.1%	33.3%	25.0%
仕事が忙しく余裕がない	47.9%	33.0%	42.1%	16.7%	31.3%
どんな活動があるのかよくわからない	33.7%	20.9%	42.1%	33.3%	18.8%
参加するきっかけがつかめない	30.7%	23.5%	26.3%	16.7%	25.0%
人間関係がわずらわしい	17.8%	20.0%	5.3%	33.3%	12.5%
知識や能力の面で不安がある	9.2%	14.8%	21.1%	16.7%	12.5%
体が丈夫でない	4.9%	12.2%	15.8%		12.5%
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	12.9%	9.6%	15.8%		6.3%
高齢者や病人の世話がある	3.7%	7.8%			6.3%
活動に経費がかかる	1.8%	4.3%	10.5%		
家族の理解・協力がいない		2.6%			6.3%
その他	6.1%	5.2%	15.8%		18.8%
無回答	1.2%	2.6%			

正規雇用者【n=163】、非正規雇用者【n=115】、派遣社員、契約社員【n=19】、農林水産業【n=6】、
商工・サービス業【n=16】

	自由業	家事専業・家事手伝い	学生	無職	その他
興味がない		20.0%	41.7%	27.3%	
仕事が忙しく余裕がない	50.0%	2.5%	25.0%		40.0%
どんな活動があるのかよくわからない	25.0%	17.5%	33.3%	17.0%	
参加するきっかけがつかめない	25.0%	20.0%	25.0%	17.0%	20.0%
人間関係がわずらわしい	25.0%	12.5%	16.7%	17.0%	20.0%
知識や能力の面で不安がある	25.0%	17.5%	8.3%	10.2%	40.0%
体が丈夫でない		17.5%		23.9%	
家事・育児・子どもの教育が忙しくて余裕がない	50.0%	20.0%		1.1%	
高齢者や病人の世話がある		15.0%		8.0%	40.0%
活動に経費がかかる		2.5%		1.1%	
家族の理解・協力がでない				2.3%	20.0%
その他	25.0%	22.5%	8.3%	17.0%	
無回答				1.1%	

自由業【n=4】、家事専業・家事手伝い【n=40】、学生【n=12】、無職【n=88】、その他【n=5】

問 19 女性の場合はあなたが、男性の場合は妻・母親など身近な女性が、次のような役職に就く（立候補する）ことを依頼された場合どうしますか。①～③の項目について、あてはまる回答の数字に1つだけ○をつけてください。【n=833】

女性が役職に就くことについて、「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける（条件によって引き受けるよう勧める）」で最も割合が高かったのは、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」が26.9%、次いで、「②市の審議会・委員会などの委員」の16.2%となっています。一方、「断る（断るよう勧める）」で最も割合が高かったのは、「③市議会議員・県議会議員」の54.7%となっています。

前回調査と比較すると、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では「引き受ける（引き受けるよう勧める）」割合が1.9ポイント、「③市議会議員・県議会議員」では1.0ポイント増加しました。女性の役職登用は少しずつ進んでいますが、依然として消極的な傾向があります。「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では1.5ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では2.5ポイント、「③市議会議員・県議会議員」では1.4ポイント増加しました。「家族など身近な者に相談してから決める」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では4.5ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では1.6ポイント減少しました。一方、「断る（断るよう勧める）」割合は、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では2.4ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では1.5ポイント、それぞれ増加しました。

		引き受ける (引き受ける よう勧める)	分野や時間的 余裕など条件 によって引き 受ける	家族など身近 な者に相談し てから決める	断る(断るよ う勧める)	わからない	無回答
問19① P T A、自治会、住民自治協議会などの役員	2024	10.1%	26.9%	20.3%	27.1%	11.3%	4.3%
	2019	8.2%	25.4%	24.8%	24.7%	8.9%	8.0%
問19② 市の審議会・委員会などの委員	2024	4.4%	16.2%	19.3%	40.1%	13.6%	6.4%
	2019	4.3%	13.7%	20.9%	38.6%	12.7%	9.8%
問19③ 市議会議員・県議会議員	2024	3.1%	6.0%	14.2%	54.7%	15.2%	6.7%
	2019	2.1%	4.6%	13.7%	56.1%	14.2%	9.3%

性別にみると、「引き受ける（引き受けるよう勧める）」「分野や時間的余裕など条件によって引き受ける」割合は、いずれの役職も男性の方がわずかに高くなっています。一方、「断る（断るよう勧める）」割合は、いずれの役職も女性の方が圧倒的に高く、「③市議会議員・県議会議員では」21.5ポイント、「②市の審議会・委員会などの委員」では18.8ポイント、「①PTA、自治会、住民自治協議会などの役員」では13.3ポイント、それぞれ男性を上回っています。

性別

		引き受ける (引き受ける よう勧める)	分野や時間的 余裕など条 件によって引 き受ける	家族など身近 な者に相談し てから決める	断る(断るよ う勧める)	わからない	無回答
問19① PTA、 自治会、住民 自治協議会な どの役員	男性	10.8%	29.6%	20.2%	19.9%	13.9%	5.5%
	女性	9.7%	25.2%	20.0%	33.2%	8.6%	3.2%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
問19② 市の 審議会・委員 会などの委員	男性	5.5%	19.1%	21.3%	29.9%	17.2%	6.9%
	女性	3.7%	14.2%	17.7%	48.7%	10.3%	5.4%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
問19③ 市議会議員・ 県議会議員	男性	4.2%	9.4%	17.7%	43.2%	18.3%	7.2%
	女性	2.4%	3.4%	11.2%	64.7%	12.5%	5.8%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】

問 20 今後、女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から選んでください。
(○は3つまで)【n=833】

女性・男性関係なく家事、子育てや教育、介護および地域活動などに積極的に参加していくために必要なことについては、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 35.7%で最も高く、「企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと」が 32.7%、「子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること」が 29.7%で続いています。

前回調査との比較については、「企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと」の項目が 2024 年調査より新たに追加した項目のため、比較していません。

	2024	2019
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.7%	33.8%
企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと	32.7%	
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	29.7%	30.2%
夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと	27.4%	31.4%
労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること	25.5%	31.5%
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	22.4%	26.9%
男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	21.7%	23.9%
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	16.9%	18.2%
男性の男女共同参画に対する関心を高めること	9.0%	12.2%
子どもに対し家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をしないこと	6.6%	7.9%
妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	5.4%	5.2%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	5.3%	6.7%
その他	3.6%	2.6%
わからない	5.0%	6.9%
無回答	4.4%	4.0%

性別にみると、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は男女ともに最も重要と考えています。次いで、女性では「子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること」が35.1%と、男性を12.7ポイント上回っています。男性では「企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと」が30.2%で続いています。女性も34.7%と、男性を4.5ポイント上回っており、男女ともに育児や介護との両立をサポートする仕組みを重視していることがわかります。また、男性では「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」が6.1ポイント、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」が5.7ポイント、それぞれ女性を上回っています。

性別

	男性	女性	その他
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	35.5%	35.8%	
企業や団体のトップが、男女ともに働きやすい環境づくりに取り組む考えを示すこと	30.2%	34.7%	
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	22.4%	35.1%	100.0%
夫婦の間で家事などの分担や協力することを十分に話し合うこと	26.9%	28.0%	
労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイム、休暇制度を普及させること	25.8%	25.6%	
仕事中心という社会全体の仕組みを改めること	25.5%	19.8%	100.0%
男性が、家事・育児・介護などに参加することに対する抵抗感をなくすこと	19.9%	23.5%	
男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	20.5%	14.4%	
男性の男女共同参画に対する関心を高めること	10.8%	7.8%	
子どもに対し家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をしないこと	3.0%	9.5%	
妻が、夫に経済力や出世を求めないこと	6.9%	3.9%	
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	3.6%	6.3%	100.0%
その他	5.5%	2.2%	
わからない	6.6%	3.7%	
無回答	4.2%	4.7%	

男性【n=361】、女性【n=464】、その他【n=1】